

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 6
2013.10

 城西大学
 城西短期大学

特集

薬学部開設40年 幅広く多様な学部へ成長 生活者目線の薬学教育を実現

シリーズ 学生瓦版ワイド 学内外で活躍する城西人たち

目次

02 [ニュース] 巣立つ城西人、新しい城西人
入学式／学位記授与式

水田理事長に
大連理工大名誉教授号

03 [特集1] 薬学部開設40年
幅広く多様な学部へ成長
インタビュー 杉林堅次副学長

04 [特集2] J-CLIPがスタート
地域課題の解決通じ
地(知)の拠点強化

06 図書館学生アドバイザー制度
6人が得意分野で学習支援

07 [学園ミニニュース]

08 [シリーズ] 学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち

10 [ニュース]
坂戸よさこい

[シリーズ]
浮世絵

11 [エリア紹介]
毛呂山町 秋見所盛りだくさん!
越生町 秋の里山ハイキング
東武線沿線情報 小江戸「川越」へ

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
薬学部は今年、開設40年の節目を迎えました。現在、薬学科、薬科学科、医療栄養学科の3学科に加え大学院を含め約2600人の学生、院生が学んでいます。来春の卒業生を加えると同窓生は1万人の大会に達します。



ニュース

巣立つ城西人、新しい城西人

今年の秋もまた、城西大学は仲間を送り出し、そして新しい仲間を迎えました。

入学式・学位記授与式

2013.9.21

国と国つなぐ 知的な職業人に

さわやかな秋晴れにめぐまれた2013年9月21日、秋季の学位記授与式と入学式が、坂戸キャンパス清光ホールで行われました。

この日、留学生ら60人が巣立ち、新たに50人が城西の仲間になりました。内訳は初めての受け入れとなったポーランドからの2人のほか、中国35人、ハンガリー8人、韓国3人、スリランカ2人。

森本雍憲学長から卒業生代表に学位記が授与された後、新入生が紹介されました。水田宗子理事長は式辞で再び東京でオリンピックが開かれることに触れ、卒業生に「自分や自国の利益のみを考えることなく、勇気ある知的な職業人として人々の生活の安全と世界の平和のために何が出来るかを考え、一つずつ実践して行ってほしい」と呼びかけました。また、新入生に「日本をよく知り、地元や日本文化に深く分け入り、親友を作って、将来の日本と皆さんの国とのかけがえのない架け橋になってください」と励ましの言葉を贈りました。

これに対し、新入生を代表して張笑融さん(経営学部マネジメント総合学科)が「私たちの志願理由はそれぞれ違いますが、共通していることは、全員が夢を持っており、夢の実現のために学ぶということです」と誓いの言葉を述べました。



誓いの言葉を述べる張笑融さん

水田理事長に大連理工大名誉教授号

2013.6.14

大学が人材育成に努めてきた結果

本学と学術交流協定を結んでいる大連理工大から名誉教授を授与された水田宗子理事長をお祝いする会が6月14日、東京紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。大連市政府日本駐在総代表の王新氏や多くの来賓や教職員の祝福を受けた水田理事長は「日中の難しい時代にさまざまなお世話をなさってきた村井(隆顧問)先生の(中国からの)恩返しを城西が受けている感じがする。(名誉博士号は)私というより、大学が人材育成に努めてきた結果だと思う。若い人に大きな期待と望みをかけてグローバル教育を進めていきたい」とお礼の言葉を述べました。



日中連携大学院生らとの記念撮影

学生・教員の交流を積極的に展開

名誉教授は、5月の大連訪問の際に授与されました。学術交流が結ばれたのは2007年5月。この年、中国における国際人材教育を目的に水田三喜男記念「水田宗子奨学金」の授与を開始し、現在までに約100人の学生が授与を受け、勉学に励んできました。このほか、学生のインターシップ研修派遣・受け入れや共同研究など、学生・教員の交流を積極的に展開してきました。

特集1 薬学部開設40年

幅広く多様な学部へ成長

生活者目線の薬学教育を実現



2013年
日本薬剤学会賞受賞



インタビュー
杉林堅次副学長

1973年に薬学部が開設されて今年で40年を迎えました。生活の質を高く維持し健康の良い状態を目指すヘルスプロモーションを支援するとの理念で輩出した学生は次の学位授与式を迎えると1万人の大会に達します。今年の日薬学会賞を受賞した杉林堅次副学長に学部創設40年の思いや受賞の喜びを語ってもらいました。

—どんな道のりでしたか。

「1期生が4年生になった創生期にこちらに来て37年。いまのように、日本で一、二の規模を誇る薬学部になるとは正直思いませんでした。現在薬学部は3学科、大学院薬学研究科は4専攻です。日本の中でも最も幅広く多様な価値がある薬学部・薬学研究科と言っています」

—いくつかの特徴ある学部・研究科に育っていますね。

「医療栄養学科と医療栄養学専攻が出来、薬物療法だけでなく食事によって病気になる体づくりが重要だとの視点を打ち出していると思います。いわば生活者の目線に立った薬学教育ができるようになりました。また、医師の卵や看護師の卵たちとの連携によって、埼玉県の医療の充実に役立つ教育プログラムもスタートしています」

—今後の抱負を聞かせてください。

「これからも総合大学の中での薬学部の強みを生かして、日本の薬学は城西が守っていくのだという気概を持つ学生が育ってほしいと思います」



造成中の水田清子記念ローズガーデン

—記念の「水田清子記念ローズガーデン」ができました。

「30周年を迎えた短期大学とともに完成を喜ばしく思います。(学内の)憩いの場所になると思いますが、薬学部ではローズウォーターなどの化粧品や石鹸も作っていきたくと思っています」

—5月に今年度の日本薬剤学会賞を受けられました。

「こつこつとやってきた成果で、森本雍憲先生(学長)や仲間らにお世話になり、お礼を言いたいです。卒業生にも喜んでもらったのではないのでしょうか。受賞のチャンスがあるという気持ちに、後進がなってくれたらうれしいです」



城西短期大学は、今年創立30年を迎えました。

特集2 J-CLIPがスタート

地域課題の解決通じ 地(知)の拠点強化

地域志向で教育・研究・社会貢献を目指す「城西大学連携教育・研究推進プロジェクト(J-CLIP)」がスタートしました。

この事業は、地域課題の解決を通じた教育・研究プログラムを体系化することで、地(知)の拠点としての機能や教育の質を飛躍的に高めることを目的としています。本学はこれまで、「高麗川プロジェクト」や「休耕地活用プロジェクト」など、地域連携のさま

ざまな取り組みを進めてきましたが、それをさらに前進させるものです。

今年度は文科省の「地(知)の拠点整備事業」への採択は惜しくも見送られましたが、白幡晶副学長は「地域に根差した本学らしい事業。全学を挙げた取り組みによって、来年はぜひ採択を受けたい」と話しています。



自治体と包括提携

本学は建学当初から地域に根差した大学を理念の一つとしてきました。その延長に自治体との包括提携がありました。両者が活力のある地域社会の形成・発展と、そのための人材育成に寄与することなどを目的にした相互連携協力に関する基本協定書の調印は2008年6月の坂戸市をはじめ、毛呂山町(12年9月)、越生町(12年11月)、そして今年になって4月には鶴ヶ島市、6月には日高市と提携されています。相互協力の自治体は、合わせて3市2町となり、学生の人間力育成と地域社会の発展をつなぐ幅広い連携を可能としています。

同プロジェクトでは今後、地域課題の解決を目指した教育カリキュラムの策定▽地域を志向した大学であることを宣言し、地域の声を受け止める体制を整備する▽大学と自治体の対話の場の設定や自治体からの支援(財政支援、土地貸与、人員派遣等)の受け皿を用意する——ことなどに取り組みます。

これまでの実績を基にした主な地域課題は①休耕地活用②地域教育力向上③地域インフラ活用④共生社会づくり⑤環境保全・環境創造(高麗川プロジェクト)⑥健康長寿——に分類できます。

課題と教育・研究活動のマッチングを図るために、専門の連携コーディネーターと職員を配置した連携教育・研究センターを設置し、大学キャンパスと地域を結ぶコミュニティーバスの運行などを視野に入れた活動も予定しています。

カリキュラム策定へ

また、本学の全学生が何らかの形で地域課題にかかわる学習ができるように地域志向科目を、課題の解決を目的としたプロジェクト運営に取り組む「プロジェクト運営科目」▽プロジェクト運営そのものには携わらず、必要な各種作業に取り組む「プロジェクト支援科目」(例えば、会計処理や広報資料作成、ウェブサイト管理など)▽プロジェクト内で実施する各種活動に携わる「活動参加科目」(例えば、休耕地の整備作業や地域児童・生徒への運動指導、地域イベントの運営補助など)▽学問的知識によりプロジェクトの背景を理解する「学問的理解科目」(例えば、地域・歴史・文化に対する理解を深める一般教養科目、地域課題の構造的背景を学問的に明らかにする専門科目——に分類、明示し、カリキュラムを改善していきます。



記念植樹をする水田宗子理事長と谷ヶ崎照雄日高市長(左端)

○これまでの主な城西大学と地域との連携実績

- ・クリーンキャンペーン・イベントの協力(環境保全)
- ・アンテナショップ(地域インフラの有効利用)
- ・休耕地活用教育プロジェクト(休耕地の活用)
- ・スチューデント・インターシップ(教育力)
- ・少年スポーツ大会(教育力)
- ・高麗川プロジェクト(環境保全)
- ・共生社会づくり(共生社会)
- ・健康寺子屋(健康長寿)
- ・特産品を利用した商品開発への協力
- ・地域図書館とのネットワーク

図書館学生アドバイザー制度

6人が得意分野で学習支援

水田記念図書館では、昨年度後期から学生アドバイザー制度を導入し、学習支援サービスの向上を目指しています。学生の身近な存在である学部先輩や大学院生に相談することにより、問題の糸口を見つけ学習意欲が増進すること、さらに支援するアドバイザー側もコミュニケーションスキルを向上させるなど、ともに成長することを目指しています。

今年度教員から推薦され、図書館長から委嘱を受けたメンバーは6人。国際貿易、会計、マーケティング、簿記、プレゼンテーション、パソコン基礎、心理学、教職関係などそれぞれが得意分野を持ち、1階と3階のアドバイザーデスクで相談に応じています。また、毎週開催される定例会議では、図書館と学生を結びつけるための新たな活動について活発な意見を出し合っています。



今年度の学生アドバイザー6人

アドバイザーは次のようなコメントを寄せています。

- 工藤 正悟さん (経営学研究科)
「元コンサルタント。あなたの学習設計から些細な悩みまで解決します」
- 坂本 健一さん (経営学研究科)
「アラサー学生アドバイザー、頼れる人にわたしはなりたい」
- 張 彦博さん (経営学研究科)
「学生の学習の助けになれるよう、後悔しないように頑張ります」
- 和知 奈都美さん (現代政策学部4年)
「笑顔で真摯に対応します!」
- 関谷 光永さん (現代政策学部4年)
「探し物は何ですか? 見つけないものも、一緒に探しましょう!」
- 坂本 史織さん (経営学部4年)
「教職の疑問、レポートの書き方など気軽に相談にのります」



応対中のアドバイザー



毎週開催される定例会議

学園ミニニュース

「越生うちわ」展

水田美術館は6月から7月にかけて「越生うちわ」の展覧会を開催しました。地域に根ざした美術館を目指して始める「さいたまの歴史と文化に触れる」シリーズの第1弾です。越生うちわは渋柿を塗って丈夫にした渋団扇が有名で、明治から昭和初期には約50件の工房が競う隆盛を誇ったといわれています。しかし、現在では唯一の工房「うちわ工房しまの」が越生うちわを作り続けています。展覧会では、同工房の5代目、島野博行さんが作ったさまざまなうちわやうちわ作りの道具などが展示され、期間中、島野さんが講師を務める「うちわ作り体験」も行われました=写真。



ドラマ「ガリレオ」がロケ

4月から7月までフジテレビ系で放映された月9ドラマ「ガリレオ」の大学場面のロケは主に坂戸キャンパスで行われました。東野圭吾原作、福山雅治主演の人気シリーズで、今シリーズも毎回20%前後の高視聴率を記録しました。ロケは薬学部の実験室や教室、キャンパス内の通路などで行われ、実験室の実験で出演した学生もいました。またエキストラの一部も本学の学生が務めました。本学では過去にドラマ「動物のお医者さん」、最近の映画では「舟を編む」などでもロケに協力しています。

サッカー場が人工芝に

総合グラウンドのサッカー場が人工芝に生まれ変わりました。短期大学30年、薬学部40年、城西大学50年の記念事業の一つとして整備されました。人工芝は、城西国際大の高円宮殿下記念スポーツパークのサッカー場と同じ「ハイブリッドターフ」。住友ゴムの関連会社が施工し、8月初旬に工事を始めて10月初旬に竣工。トラック内の約1万平方メートルが、緑鮮やかな人工芝になりました。サッカー部の猿山誠監督は「念願の人工芝になってうれしく思います。選手のけが防止に役立つほか、土埃で学校が汚れることもなくなるうえ、高校の選手が本学を選んでくれるメリットもあります。また、地域の子供たちにも使ってもらいたいと思います」と喜びの声。「選手には『これから頂点を目指そう』と言っています。そのためにも関東リーグ復帰を果たしたい」と決意を語っています。



造成中のサッカー場

女性講座「ジェンダーで読む韓流時代劇」

短期大学が創立30周年を記念して6月から7月にかけて計5回開きました。最近の日韓関係は領土問題など政治的には不安定ですが、文化交流としての韓流は着実に定着しています。今回は三国時代から朝鮮王朝、植民地時代前夜にいたる「朱蒙」や「善徳女王」「王女の男」など時代劇のTVドラマに焦点をあて、登場する女性像を読み解きながら女性学・ジェンダー研究の視座を紹介しました。定員は先着50人でしたが、毎回多くの受講希望者が訪れ、熱心に講義に聞き入っていました。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回はワイド版でお送りします。

Daisy(経済学部) 縦にも横にも交友関係が広がる

経済学部生1385人のうち女子学生は93人。人数の少ない女子学生が学内で過ごしやすいようにと設立されたのが、「daisy」(経済学部女子学生会)だ。女子学生同士の情報交換やキャリア形成を目的としている。

「他学部には女子学生会があるから、経済学部でも作ろう」と、経済学部の先生の協力も得て2012年に発足した。活動は不定期だが、4月に年間の流れを大まかに決め、それに従って活動をしている。城西大学に新しく赴任した先生を招いて、就職関係の話や外部から講師を招いて活動を行ったりもしている。最近行った活動は色彩講座。色が人に与える印象やその人の感情を簡単に知ることができる「カラーセラピー」を学んだ。

daisyの活動は基本的に自由参加だ。しかし、参加すること



活動は原則自由参加だ

で縦にも横にも交友関係が広がり、就職関係の勉強にもなる。「興味をもった方はぜひ気軽に参加してほしい」とメンバーは呼びかけている。連絡先は学部事務室。

(取材:広報委員会2年・貝沼大輔、池田みなみ、中原雅人)

無敗でチャンピオンに キックボクサー 石原将伍さん(現代政策学部2年)

「夢はジムの会長との約束である無敗でタイトルマッチに挑戦し、チャンピオンになること」。そう語るの、現在日本ランキング7位のキックボクシング選手、石原将伍さんだ。毛呂山町出身の石原さんは東松山市のビクトリージムに所属し、チャンピオンになることを夢見ている。

石原さんがキックボクシングを始めたのは高校1年生の時。キックボクシングの力と力の勝負にひかれたという。日々の練習は辛い、練習をしないと不安になって眠れないそうだ。練習よりも辛いのが減量。身長168㎝、体重は減量前が63㎏で減量後は57㎏。



石原さんの試合風景

CHERRY(経営学部) 今後はボランティア活動も

一方、経営学部の女子学生会が「Cherry」。人数は8人と小さいサークルではあるが、教授6人のサポートを受けて、さまざまな事に挑戦している。学内では経営学部1年の女子交流会の開催や高麗祭での出店、学外ではリクルートのメルマガ配信、ジャパンパスカル株式会社と和菓子の共同開発など。会に入って3年目の高橋亜美会長は、活動について「コミュニケーションの大切さや言葉づかいを学べ、なにより自分のキャリアアップになることにやりがいを感じる」と話してくれた。

夏休みのオープンキャンパスでは初めての試みとなる高校生向けの「トークショー」も開催。今後はボランティア活動にも挑戦したいと意欲的だ。

(取材:広報委員会2年・戸澤敦子、松本拓郎、金子友紀、丹波暎)



CHERRYメンバー

石原さんの場合、試合の2週間前と遅めに減量を始めるため体調を維持するのが大変だという。減量中は、栄養失調に近い状態になるため、親族が分からなくなるほど顔がやつれることも。こうした苦しみがあるからこそ、試合でのモチベーションを維持することができるのだ。



石原さんは現在10戦8勝2分け。「プロになってから負けがないのが自分の強み、まずは無敗でタイトルマッチを迎えたい」と抱負を語る。そのために心がけているのは試合までのコンディションを整えること。風邪やけがをした場合はすぐ休み、無理をしないのが長く現役を続けるコツだ。「一つ好きなことを見つけて続けていけば、よいことが必ずある。維持するのは大変だが、積み重ねが重要」と、城西生にメッセージを送ってくれた。

(取材:広報委員会2年・丹波暎、戸澤敦子、松本拓郎)

体育會本部 硬いイメージからの脱却

体育會本部は、主に体育会系の部活動をまとめている団体だ。創立46年、高麗祭実行委員会や文化部連合会と同じく伝統を誇る。今年もクラブ発表会で演武が行われていたが、それを運営していたのも体育會本部だ。体育会系の部活動に学生課からの連絡の伝達などもしている。



会長の木田耕太郎さん

体育會本部のやりがいについて、会長の木田耕太郎さん(現代政策学部4年)は「部活動に取り組むことで、仲間とともにいい汗をかき、達成感を得ることができる」と語る。しかし、昨年は部員数が5人と少なく、1人で3役をやることもあり、大変だったという。

今年のメンバーは



勧誘時の演武

8人。団体であるからこそできることを実感しているという。今年の高麗祭では、露店を出すことにしている。先輩たちから、新しいことを始めたらとアドバイスがあったからだ。露店では、体育會本部の硬いイメージを払しょくするため、ポップコーンを販売するそうだ。そのうえで、「各部が部活動でおさめた優秀な成績をたくさんの人々に知ってもらいたい」と語った。

(取材:広報委員会2年・栗原勇斗、鈴木彩加、戸塚優樹)

甲子園球児からプロ歌手に 下松(くだまつ)翔さん

「城西大学出身の演歌歌手である水森かおりさん以上に有名になって学校の名を高めたい」と熱く語ってくれたのは、現代政策学部4年生の下松翔さん。下松さんの父親は歌手からスカウトされるほどの実力をもっていたが、家庭の事情もあってあきらめたという。だから歌手は、父の夢であり自分の夢でもあるのだそうだ。

下松さんは大分県の明豊高時代、野球に打ち込んで甲子園に出場した。仲間であり、友人でもある今宮健太さんはドラフト1位でプロ野球ソフトバンクに入団。今期も1軍で活躍している。下松さんも何か勝負できる道に進みたくて、プロ歌手を目指したという。

当初はやはり発声方法がプロとアマチュアでは大違いで、かなり苦労した。そんな中で売れるためには自分の声の個性を大事にしていかなければならなかった。下松さんが歌うのはJ-ポップのR&B。ライブハウスなどで歌うときは、プロの見せ方も研究している。

YouTubeで「ダイニングパーゲット」と検索すると映像と歌



Sho Kudamatsu
2013.1.14 Live@WanizHall

が視聴できる。曲は福山雅治さんに曲を提供する人物が、下松さんに書いたものだそうだ。夢や目標を聞いたところ、「たとえ有名になれなくても、あきらめずに夢を追いかけ、子どもたちの目標になりたい」との答えが返ってきた。

(取材:広報委員会2年・須田達也、中原雅人)

ニュース

坂戸よさこい ダイナミックに舞う

経営学部チーム

「第13回坂戸よさこい」が8月17、18の2日間、坂戸市の東武東上線坂戸駅から北坂戸駅東口までの市道などを舞台に開催されました。今年も東日本大震災からの復興を願うお祭りとして、全国のよさこい祭りでも有数の94チーム約5000人が参加。本学の経営学部チーム30人もおそろいの衣装でダイナミックな踊りを披露しました=写真。

経営学部チームは17日午後3時過ぎ、中央会サンロード会場から踊りをスタートさせました。経営学部学生会会長でチームリーダーの斉木ひろみさん(3年)が「わたしたちは今年で8回目の参加を迎えることができました。これも坂戸市をはじめとした皆様のおかげです。わたしたちは若さ、笑顔、元気にそしてパワフルに精いっぱい一丸となって踊りますので沿道の皆さん、ご声援よろしくお願いします」と元気よく述べて、演舞に入りました。チームはこの後、夜まで3会場パフォーマンスを披露しました。

今年は例年より少ない人数でしたが、夏季休業前から練習を始め、休業中はほぼ毎日練習を重ねたほか、群馬県へ1泊2日のよさこい合宿もしたそうです。毎年、自分たちで曲決めから振り付け、かけ声にいたるまで意見を出し合いながら踊りを工夫してし



ます。斉木さんは3年連続の参加。「自分の限界を突破する気持ちとお客様を楽しませることを意識して踊りました。3年間、続けてよかったです」と流れる汗をぬぐっていました。

また、18日はダンスサークル「城西大学 SHOE LACE」のメンバーが3会場で力強い踊りを繰り広げ、お祭りを盛り上げました。

エリア紹介

毛呂山町

秋の毛呂山町は 見所盛りだくさん!

8月、スペインのバルセロナで行われた世界水泳選手権大会で毛呂山町出身の瀬戸大也選手(JSS毛呂山所属)が400m個人メドレーで金メダルを獲得しました。日本人選手がこの種目で優勝するのは、史上初めてのことであり、まさに快挙を成し遂げたといえます。

さて、毛呂山町では、秋になると見所たくさん、行事が多く行われます。10月27日(日)、鎌北湖を中心に山間部を健脚たちが走る「鎌北湖マラソン大会」が開催されます。11月に入ると3日(祝)、町内の小中学生のなかから選ばれた乗り子がさまざまな馬上芸を披露する「出雲伊波比神社の流鏝馬」=写真=が行われます。なお、瀬戸選手も小学生のときに乗り子を務めました。また16日(土)、17日(日)、町内の事業者がさまざまなイベントや各種商品を販売する「産業まつり」が毛呂山総合公園で行われます。そして23日(祝)、毛呂山の里山を歩くイベント「もろやまゆずの里ウォーク」。24日(日)、ゆず娘の撮影



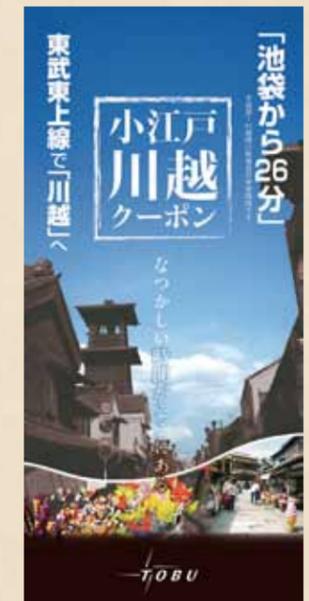
会も行われる「鎌北湖紅葉まつり」。どの行事も魅力たっぷり! ぜひ、皆さんおそろいで毛呂山町にお越しください。

東武線沿線情報

小江戸「川越」へ ぜひお出かけください♪

秋といえばスポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋……。色々とテーマが浮かんできます。秋はぜひ小江戸「川越」へお出かけください。かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていました。今でも江戸の風情が残る、蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあり、パワースポットとなる寺社も多く点在しています。また、川越はイモの町でもあります。スイーツはもちろん、イモ料理など多くの飲食店が軒を連ねています。

お出かけにはお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」のご利用をおすすめします。発売は東武東上線各駅で(川越、川越市、寄居、越生を除く)。ただし、毎年10月の第3土曜日・日曜日に行われる「川越まつり(川越氷川祭り)」の日には使用できないのでご注意ください。詳しくは、東武鉄道ホームページをご覧ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL 049-271-7712
http://www.josai.ac.jp

2013年10月発行

シリーズ

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえない歴史の懐かしさを感じ取れます。当時の人物や風俗などが、活き活き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『六玉川 萩の玉川』 鈴木春信

古来、歌枕として名高い六つの玉川をテーマに、それぞれの玉川にちなむ和歌を掲げ、その歌意を江戸風俗に置きかえて表した六枚揃いの「六玉川」。そのうちのひとつが「萩の玉川」。春信は古典を当世美人に翻案する見立絵を多く手がけたが、中でもこの揃物は優雅で格調高い代表作の一つ。その六図がすべて揃うのはメトロポリタン美術館と当館のみで、さらに当館の蔵本は保存状態が極めていいという。

本作品は、肌が透ける薄物の襟元をく

つろげた娘と団扇を手にした娘が、いまだ暑気の去らぬ夜に涼を求めて水辺にやってきましたらしい。源俊頼が近江国(滋賀県)の名所を詠んだ和歌「あすもむ野路の玉川 萩こへて 色なる浪に月やどりけり」(『千載集』)が記されている。

歌意のとおり、萩が咲く水辺で、2人の娘は水面に映る月影を鑑賞している。萩や流水の美しい曲線や、2人の娘がなす三角形に春信の卓越した構図感覚を味わうことができる。

越生町

秋の里山へハイキング

秩父の里山を散策する第15回武蔵おごせハイキング大会が10月27日(日)に開催されます。このハイキングは、秋のおごせを満喫しながら家族や仲間と楽しめる大会となっています。

また、この大会のコースは、室町時代の名将、太田道灌と父道真が再建した龍隠寺や日本観光百選に選ばれている黒山三滝などを巡る「パワースポット三滝コース」(16km)と二つの峠を経由する「健脚!顔振峠パノラマコース」(22km)の2コースを設定していますので、体力にみあ



たコースを選ぶことができます。今年は、ゴール地点が入浴施設を備えたゆうパークおごせに変更になりました。ハイキングの後のお風呂でゆったりして、秋深まるおごせで1日を満喫してはいかがでしょうか。